郵便による蝶交換をしていた下諏訪市の故津田進さんから、直接来ないかという誘いがあって、1962 年 8 月、初めて高知市から単独での県外旅行をする。一日目は七島八島高原を案内してもらう。スジボソヤマキチョウが多く、路傍の花々のどこにも群れ飛んでいる。一番うれしかったのが、初めて目にするクジャクチョウで、歩道上の湿り気を求めて、まるできれいではない裏面の黒だけが目立つ体勢で、10 頭以上があちこちで夢中になって吸水している。

8 月 3 日、茅野駅前から八ヶ岳登山口までバスに乗り、そこから本格的な登り道へと進んでいく。高知で 1400m の梶が森への登山が唯一の経験であるが信州八ヶ岳への登りで、どんなチョウに出会えるのだろうかという期待感いっぱいで急坂も苦にならない。途中の路面で日向ぼっこをしていたクジャクチョウが驚いて飛び立つのは、高知でいえばルリタテハでよくみる光景だ。津田さんが雪解け水の流れ落ちるところでその冷たさを体験させてくれる。どれだけ時間を要したのかの記憶が薄いが、やがてクロユリ平を経て中山峠をいくらか越えた場所で登山道を右に外れた道なきダケカンバの林へと踏み込む。樹林帯を横切るように進むと、赤岳の斜面だと思われるかなり傾斜のきつい明るい大草原に出る。あたりは一面花畑がひろがり、ベニヒカゲとクモマベニヒカゲがまさに乱舞している。

Aug. 28-29, 1977：新鹿沢温泉、湯の丸高原地蔵峠

湯の丸高原地蔵峠 11：50 着。霧が流れて涼しい。バスは小休止後、峠を下って温泉に向う。最初のカーブのところにベニヒカゲの姿が見える。アザミの花にきているらしい。右手に見える谷筋草原にもいくつか見る。しかし霧がいっそう深く、日差しはまったくなし。ベニヒカゲもその飛び方が弱々しい。さらに進むにつれて霧が濃くなり、バスのフロントガラスが濡れ始める。ついにはワイパーも作動。新鹿沢国民休暇村入り口につく頃にはもう雨。弱いが確かに雨だ。ショック。時に 12：15. 定刻より 14 分早い到着だ。峠に戻ろう。そして、せめてベニヒカゲでも採ろう。

Aug.29,1977 長野湯の丸高原
ベニヒカゲ ♂

Aug.29,1977 長野湯の丸高原
ベニヒカゲ ♀

裏面

裏面

小諸行き 13 時のバスで再び峠へ。霧が少し残っているものの峠一帯に雨はなく、ときおり日差しも見られる。峠を新鹿沢温泉側へと少しもどるともうベニヒカゲが姿をあらわす。新鮮個体を確かめて採る。クロヒカゲ、ヒメキマダラヒカゲ、ミドリヒョウモンなども飛んでいるが、もっぱらアザミやアキノキリンソウに群がるベニヒカゲだけを追い、カメラにもおさめる。さらに下りたところにバスの中から認めた草原があり、アザミ花上でアカタテハが求蜜している。15 時のバスまでひたすらベニヒカゲと戯れる。雲が多くなると急にチョウの姿が減ってしまうため 15：14 のバスに変更していま少しねばる。冬にはスキー場となるスロープにも霧が立ち込めてくるが、あえてその中に入り込むと羽を休めるベニヒカゲが見つかる。ここら一帯には黄斑型のメスが多い印象。個々の斑紋に微妙な違いがみられ、そ

Copyright© 2008- Soft House JUMP. All rights reserved.

ういう視点でついつい捕獲数が増えて、結局新鮮個体を 20 頭も採ってしまうが、汚損個体もふくめてあたりにはまだまだ多数頭のベニヒカゲが乱舞しており、乱獲採集にはあたらないと自己弁護。
(現在、ベニヒカゲは種指定の保護蝶となっていて長野・群馬県では採集が禁止されている)

Aug. 20, 1988：湯ノ丸高原
高校生の娘と妻の 3 人で何年振りかに訪れた湯ノ丸高原で、アキノキリンソウが咲く草地を飛び交うベニヒカゲをカメラで撮影。娘の撮影記録が右の画像だ。

Aug. 27, 2010：白馬黒稜平
リフト終点から遊歩道を進むと、発生ピークは過ぎたスレ個体のベニヒカゲが飛び交っており、その忙しい飛翔を追いかけてビデオ撮影。飛翔中のベニヒカゲ撮影は、ファインダーが小さいため、しっかりと中央部に撮りこむのが難しく、草むらのなかまで足を

踏み込んで追いかけ、走り回ったあげくの成果が右端の 1 枚だけとはふがいない。
ベニヒカゲは産地ごとの変異が多いチョウとして有名だが、蝶友の塩満さんにいただいた北海道日高産は後翅に全く紅紋がなく裏面もまるで表のようだ。北海道では、実際にベニヒカゲに出会えてはいない。

Aug.5,2007 北海道日高町
ベニヒカゲ ♂
leg. Y.Shiomitsu

裏面

Copyright© 2008- Soft House JUMP. All rights reserved.